

が、薩長は莫大な戦費をつぎ込んで倒幕の戦争を始めたのに、無血開城では戦利品も得られない。しかしただでは軍隊を帰せない。そこで海舟は、「江戸に金は無い。でも東北を見よ。会津藩・三万石、仙台藩六二万石、占領すれば相当の価値だ」「京都の騒乱は会津藩のせいだ」等々、西郷を唆したのではないか。そして東北征伐となったのではないか。海舟は知らん顔をして江戸に居続けたので、東北の人達は海舟が大嫌いです。

先日、私は高知県立坂本龍馬記念館に取材に行きました。同館館長・森健志郎氏は私との対談の中で、「戦争回避派の龍馬が生き残ると、倒幕派には不都合」「龍馬暗殺の黒幕は、倒幕派の首領、薩摩ではないか」と仄めかしておられました。私は「全くその通りだと思います」と申し上げ、意気投合しました。

「龍馬伝」はいよいよ龍馬暗殺のシーンを迎えます。NHKは「真犯人はやはり会津らしい」と言います。当時、会津藩お抱えとして新撰組と京都見廻組がありましたが、見廻組頭目の佐々木只三郎が実行犯というのが通説です。彼は会津藩の上級武士の次男坊でした。しかし殺す理由が希薄です。現場検証もなく、見廻組組員の証言のみ。現在の法律からすれば、証拠不十分で事件は迷宮入りしたはずですよ。

すし、小沢さんは若手選出ながら薩摩の西郷と大久保を尊敬しているからです。

東北の人達は白けています。平民宰相として有名な原敬こそ尊敬すべきだからです。原は盛岡藩出身の最初の総理でした。彼の号「一山(逸山)」には、戊辰戦争で朝敵とされた東北が受けた侮蔑の言葉「白河以北一山百文」への深い憤りが窺われています。「原より大久保や西郷を尊敬する人は総理にない」と冷ややかな評価です。

さて、薩長は明治政府になってからも利権を巡って至る所で争っています。例えば北海道開発の利権を取ったのは薩摩で、植民地台湾の利権を握ったのは長州というように、互いに喧嘩ばかりして仲が悪いのです。歴史的に見て、長州好きの菅さんと薩摩好きの小

会津の人達は泣いていました。戊辰戦争以来朝敵の汚名を着せられ、下北半島に流され、差別と困窮の極みを忍の一字で耐えてきたのに、今だにドラマでは悪役です。最近では龍馬暗殺についても様々な説が出てきているのに、NHKは「実行犯は会津お抱えの京都見廻組。黒幕は不明」という方針で描くようです。黒幕は薩摩か、長州か、会津か。紀州藩との間にも船をぶつけたトラブルがあって、紀州かもしれません。

#### 龍馬の今日的意味

私は、二〇〇八年八月の衆議院議員選挙の時から「自民党は幕府だ」と思っていました。自民党総裁は一年も続かずころころ代わって、外国から見たら誰だか分からない。徳川将軍も同じです。将軍で知られている人は、家康・家光・綱吉・吉宗・慶喜ぐらいでしょう。あとは人前で全然話も出来ないし、外国使節と会っても何も出来ない。ただ領いているだけ。イギリスは「幕府は駄目だ。リーダーが全く機能していない。薩摩の方が若手を中心に余程しつかりしている」と幕府を見限ります。

そうこうするうち、自民党政権は潰れ、民主党政権になりました。「民主党は薩長」だと言えるでしょう。菅さんは山口県出身で「奇兵隊内閣」を自称しています。

沢さんとしては必ず喧嘩になると思っていました。案の定そうになりました。菅内閣は長州閥です。日本の政局はかくのごとく幕末に似ていますが、今の日本に龍馬はいません。「龍馬よ、出て来い」と願う今日この頃です。

(歴史作家・東北大・文・昭34)

(本稿は平成22年9月21日午餐会における講演の要旨であります)